

## 令和4年度第2回東北森林管理局事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 令和5年2月7日(火) 10時00分～11時45分

2 開催場所 東北森林管理局 2階大会議室

3 出席者

(1)事業評価技術検討会

会長 高田 克彦

委員 山本 信次

委員 菊池 俊一

委員 山中 高史

(2)当局出席者(検討委員会委員等)

森林整備部長

計画保全部長

企画調整課長

計 画 課 長

治山課課長補佐

森林整備課長

資源活用課長

森林整備課課長補佐(説明員)

企画調整課監査官(事務局)

企画調整課監査係長( 〃 )

4 評価の対象

事前評価(森林環境保全整備事業)

- ・北上川中流森林計画区(岩手南部森林管理署、岩手南部森林管理署遠野支署)
- ・米代川森林計画区(米代東部森林管理署、米代東部森林管理署上小阿仁支署、米代西部森林管理署)
- ・庄内森林計画区(庄内森林管理署)

5 事業評価技術検討会の意見

事前評価(森林環境保全整備事業)

「効率的な森林整備と路網整備を行うことにより、公益的機能の発揮による生活環境の向上、木材生産等を通じた地域振興への寄与が期待されることから、事業実施の必要性が認められる。」

## 6 質疑応答

事前評価(森林環境保全整備事業)

委員:チェックリストでA評価となっている直近3か年以内に激甚災害指定があった米代川流域について、評価結果の案の中で国土保全という大きな括りではなく災害からの早期復旧というような文言が具体的にあっても良いのではないか。

当局:米代川流域の個表部分で書き加えることを検討したい。

委員:アカマツの天然更新について、今回は小規模な面積であり計画どおりで結構だが、現在被害がない所や被害が甚大な海岸線から離れている所という理由で、アカマツ施業を続けて良いのか。樹種転換なり天然更新により広葉樹林化させるなど、地理的条件を踏まえながら、アカマツ林を今後どのようにしていくのかという見通しについて、現時点の意向などがあれば教えていただきたい。

当局:松枯れ対策については、樹種転換など条件が合う所でなければなかなか難しいこと、現在被害がないという理由ではなく、被害状況に応じて対応しているということを御理解いただきたい。

委員:被害の先端地域になってからでは遅いため、今から考えるべき。ここ数年は良質なアカマツの需要も増えているが、良質なアカマツを育てることは難しい。例えば抵抗性品種を母樹として植え付け、人工林帯を作って天然下種更新させるなど、次の世代を考えた施業を考えていただきたい。こうした中長期的なアカマツ資源の維持というのは国有林レベルでなければできないことであり、国有林独自の計画や施業などを考えていただきたい。このままでは本当にアカマツがなくなってしまうと非常に危惧している。

委員:過去のB/Cとの比較から、事業費単価や労賃の上昇からB/Cが下がっていることは理解できたが、便益側でこうした物価等の上昇を反映できるような仕組みはあるのか。B/Cが1.0以上あれば良いと思えばそれほど心配するものではないのかもしれないが、どんどんB/Cが下がっていく一方なのではないか。

当局:様々な単価などを設定しているプログラムによる評価であるため、改定の必要があればある程度反映されるものと思われるが、林野庁全体のことであり本庁に伝える。